



Title	令和元年度（2019年度） 事業実施報告
Author(s)	
Citation	大阪公衆衛生. 2021, 92, p. 69-78
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/79283
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

令和元年度（2019年度）事業実施報告書

2019年4月1日から2020年3月31まで

【事業の状況】

公益財団法人大阪公衆衛生協会は、昭和 29（1954）年に設立され、1985 年に財団法人となり、2013 年 10 月 1 日に公益財団法人となった。現在は、大阪府内の公衆衛生行政・機関の実務者、大学関係者、保健医療者、民間人などを対象として、①公衆衛生に関する教育・普及啓発、②公衆衛生に関する調査・研究の奨励及び助成、③公衆衛生に関する機関誌の頒布・図書の発行、④ストップ結核パートナーシップ推進など定款に定める公益目的事業を実施している。

1. 公益目的事業（公 1）【普及啓発事業】

1) 令和元年度 小児保健部会「講演会」

子どもの聴覚障がいや早期発見・早期療育が図られることにより、その後の音声言語発達などへの影響は最小限に抑えられることが知られており、すべての出生児への新生児聴覚検査が望まれる。母子保健行政としても、平成29年12月に厚労省からの通知が改正され、自治体における検査の受診状況の把握、および積極的な公費助成が求められている。このような状況を踏まえ、診断・治療や教育の第一線で活躍の二人の演者による下記のテーマの講演をいただいた。

テーマ：「子どもの難聴～新生児聴覚検査の実際からその後の支援まで～」

日 時 令和 2 年 1 月 15 日（水）14:00～16:30

場 所 大阪赤十字会館 3 階 301 号

参加者 57 名

座長 田端 信忠 氏（こども青少年局子育て支援部医務主幹
兼 大阪市保健所医務主幹）

《講演Ⅰ》演題：「新生児聴覚スクリーニングの意義と事後処置の重要性」

講師：阪本 浩一 氏（大阪市立大学医学部耳鼻咽喉科 病院教授）

要旨：聴覚障害の早期発見のため新生児聴覚スクリーニングが推し進められている。

新生児聴覚スクリーニングのシステムの仕組みと方法と精密検査機関での検査と療育への連携の実際を解説する。児の成長に伴い、常に聴力のチェックが必要である。難聴の程度による確定診断までの問題点、遺伝性難聴、サイトメガロウイルスなどの原因についての解説。補聴器、人工内耳の適応と装用後の療育の重要性、言語発達と構音、吃音の問題にも言及した。

《講演Ⅱ》演題：「聴覚障がい乳幼児への支援について」

講師：中道 勝久 氏（大阪府立生野聴覚支援学校首席・幼稚部主事）

要旨：大阪では、「新生児聴覚スクリーニング検査マニュアル」を作成し、検査の普及・啓発、診断確定後の療育・教育との連携をはかってきた。近年では、府が設置した「新生児聴覚検査関係機関連携会議」で情報共有、意見交換が行われ、「大阪府新生児聴覚検査事業の手引き」が発行された。聴覚障がいの早期発見の重要性、診断確定後に開始される療育・教育が鍵となる。保護者、家族の不

安をやわらげ、コミュニケーションの基礎を築く親子関係の確立など乳幼児に対する適切な支援が不可欠である。新生児聴覚検査の導入以降、聴覚支援学校でも高度、重度の難聴に加えて、軽中等度難聴の乳幼児相談、入学が増えている。聴覚支援学校における3歳未満児教育相談の歴史は古いが、現在実施している3歳未満を対象にした「子育て講座」などの支援の内容や課題について報告した。

※本講演会は大阪地域の医師、保健師、看護師、栄養士、福祉関係者、行政職員など、保健・福祉及び医療・公衆衛生関係者等を対象とした。

2) 令和元年度 成人保健部会 「講演会」

依存症は、WHO の定義では「精神に作用する化学物質の摂取や、ある種の快感や高揚感を伴う行為を繰り返し行った結果、それらの刺激を求める耐えがたい欲求が生じ、その刺激を追い求める行為が優勢となり、その刺激がないと不快な精神的・身体的症状を生じる、精神的・身体的・行動的状态」となっている。

アルコールや薬物などに依存する物質依存症、ギャンブルやゲームに依存する行動依存症などがある。日常生活で出会う様々な依存症事例に対する適切な対応について学ぶとした。

テーマ：「様々な依存症を理解する」

日 時 令和2年2月26日（水）14:00～16:30

場 所 大阪府病院年金会館 地階 コンベンションルーム

参加者 68名

（総合司会）柴田 敏之 氏

（大阪府吹田保健所長・大阪公衆衛生協会成人保健部会長）

《講演Ⅰ》演題：「ゲーム依存症などの昨今の依存症問題」

講師 野田 哲朗 氏（兵庫教育大学大学院学校教育研究科 教授）

《講演Ⅱ》演題：「依存症の背景にあるもの」

講師 籠本 孝雄 氏（大阪府こころの健康総合センター 所長）

※本講演会は保健所及び市町村、病院、施設などの医師、保健師、社会福祉士・精神保健福祉士、養護教諭教職員、看護師などの関係者を対象とした。

3) 令和元年度 感染症予防部会

ストップ結核パートナーシップ関西 第7回 ワークショップと共催した。

3. 公益目的事業（公3）を参照

4) 令和元年度 生活衛生部会 「講演会」

公衆衛生行政は、監視指導業務、保健業務とともに、健康危機管理業務が大きな柱となっている。山口浩明氏には、健康危機事象発生時につきものである広報報道対応に焦点を当て、「健康危機管理と広報について」講演をいただいた。宮園将哉氏には、公衆衛生分野の災害対策の一環として平成30年度から制度化された「災害時の保健医療活動に関する取り組みと災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）」について講演

をいただいた。辻野悦次氏から大阪府において平成 30 年度から開始した生活衛生分野の「災害時の生活衛生対策に関する取り組み」について講演をいただいた。

テーマ：「健康危機管理における公衆衛生従事者の役割を考える」

日 時 令和 2 年 1 月 31 日 (金) 14:00～16:30

場 所 大阪府病院年金会館 コンベンションルーム

参加者 127 名

(総合司会) 公益財団法人大阪公衆衛生協会生活衛生部会長 今田 光三

《基調講演》「健康危機管理と広報について」

講師 山口 浩明 氏 (大阪市健康局長)

《講演Ⅰ》「災害時の保健医療活動に関する取り組みと

災害時健康危機管理支援チーム (DHEAT)」

講師 宮園 将哉 氏 (寝屋川市保健所長)

《講演Ⅱ》「災害時の生活衛生対策に関する取り組み」

講師 辻野 悦次 氏 (大阪府環境衛生課 水道・生活排水グループ調整総括主査)

※本講演会は保健所及び市町村の環境・食品・薬事衛生行政職員及び医師、保健師、薬剤師、獣医師、検査技師、エイボランターネットワークなどの関係者及び一般府民を対象とした。

5) 令和元年度 「エイズ予防事業」基金による普及啓発調査活動

エイズは世界的な課題であり、わが国の感染者・患者数も減っていない。大阪の新規 HIV 感染者・エイズ患者の報告が増加しているが、その対策として同性間による感染者・患者の割合が高いことに対する感染予防対策が重要である。「MASH 大阪」は、男性同性愛者 MSM(Men who have sex with men)のエイズ予防のための近畿で唯一の民間団体である。その団体が予防啓発を行うのに必要な啓発資材の作成費と活動を支援した。

6) 藤原九十郎顕彰事業

1) 第 41 回藤原九十郎賞表彰式並びに記念シンポジウムの開催

大阪の公衆衛生の発展に生涯をささげられた故藤原九十郎博士のご遺徳を記念して基金が設けられている。その基金をもとに、長年にわたる保健活動を通じて公衆衛生・看護の発展と、後進の指導育成、並びに地域保健福祉活動に尽力された大阪府内の保健師を顕彰している。令和元年度は 5 氏を表彰し、その受賞者を演者としたシンポジウムを大阪府保健師研究会・大阪市保健指導研究会と共催実施した。

当日は新聞社の取材が入り翌日の新聞に掲載された。

日 時 令和元年 5 月 20 日 (月)14:00～16:50

場 所 大阪病院年金会館 コンベンションルーム

参加者 110 名

[第 1 部] 表彰式

受賞者(5 名) 高崎 充代 高橋 育美 土井 節子 堀井 裕子 渡 弘美

[第 2 部] シンポジウム

テーマ 「今も昔も ～ 見る・つなぐ・動かす」

～私の保健師としての実践活動～

座 長 上野 昌江（関西医科大学看護学部看護学研究科 教授）

シンポジスト 受賞者

高崎 充代 高橋 育美 土井 節子 堀井 裕子 渡 弘美

2) 藤原九十郎賞顕彰委員会の開催

新型コロナウイルス感染症対応として本委員会はメール会議として行った。

日 時 令和2年3月16日（月）

場 所 メール会議

内 容 第42回藤原九十郎賞並びに記念シンポジウムについて

・開催日：令和2年5月29日(金)14:00～

・会 場：大阪府病院年金会館 コンベンションルーム

・受賞者：澤田恵津子 多田 和代 福岡美佐子

・受賞者によるシンポジウム

テーマ「今も昔も～みる・つなぐ・動かす」

－私の保健師としての実践活動－

7) 言語の壁を越える「働き方」の一つの指針：Contextual Sensitivity を

「見える化」する適正テスト

人材交流(民際交流)の場面で、外国語運用能力の双方向性は必須で、各人の言語習得力の克服により社会でその双方向性を実現することが望まれる。本「適正テスト」はそうした「双方向言語運用能力」をつけることを目的に大阪大学 CO デザインセンターとの共催で下記の6回にわたり実施した。

① 令和元年7月23日(火)14:40～16:10 (90分)

・受検者数：23名 全体評価 A評価：3 B評価：17 C評価：3

② 令和元年7月23日(火)16:20～17:50 (90分)

・受検者数：13名 全体評価 A評価：5 B評価：7 C評価：1

③ 令和元年8月23日(金)16:00～17:30 (90分)

・受検者数：2名 全体評価 A評価：1 C評価：1

④ 令和元年12月1日(土)15:00～16:30 (90分)

・受検者数：2名 全体評価 A評価：2

⑤ 令和元年12月9日(月)14:00～15:30 (90分)

・受検者数：1名 全体評価 A評価：1

⑥ 令和2年2月22日(土)10:30～12:00 (90分)

・受検者数：2名 全体評価 A評価：2

2. 公益目的事業（公2）【母と子のすこやか基金による調査研究等の助成】

1) 令和元年度 第1回「母と子のすこやか基金」運営委員会の開催

内 容 令和2年度「母と子のすこやか基金」助成募集について

日 時 令和元年 12 月 5 日 (木) 18:30～

場 所 大阪府立母子保健総合医療センター 総長応接室

2) 令和元年度 第 2 回「母と子のすこやか基金」運営委員会の開催

内 容 令和 2 年度「母と子のすこやか基金」助成申請の審査

日 時 令和 2 年 3 月 9 日 (月) 18:30～

場 所 大阪府立母子保健総合医療センター 総長応接室

《各種助成》

「母と子のすこやか基金」は、母子保健医療の向上と健康保持推進に寄与する調査・研究並びに啓発活動等に対して助成を行うものとしている。

令和元年度は、24 件の応募があり、「母と子のすこやか基金」運営委員会の審査を経て、13 件、550 万円を助成した。

<研究助成>

- 1) 吉田 浩太：小児呼吸器感染症における Multiplex PCR 法の有用性に関する研究
- 2) 石井陽一郎：肺鬱血・肺低形成を引き起こす先天性心疾患における母体酸素投与による胎児肺動脈の血管反応性評価を用いた新生児予後予測能に関する研究
- 3) 平田 克弥：新生児慢性肺疾患の重症化を予測する新規のバイオマーカーの検討
- 4) 持田 京子：胎生期の表皮細胞分化に必須な Grhl3 タンパクの活性制御機構の解析
- 5) 堀内 緑：妊産婦の大動脈解離を予測するバイオマーカー探索

<学会・研究会開催助成>

- 1) 松尾 勲：第 27 回 母と子のすこやか基金シリーズ 母子医療センターシンポジウム「発生・成長期疾患の病因解明へ向けた新たなアプローチ」
- 2) 位田 忍：第 10 回大阪小児在宅医療を考える会
- 3) 稲村 昇：第 17 回 日本胎児治療学会学術集会

<啓発・調査活動助成>

- 1) 川口めぐみ：子どもの事故予防リーフレット
- 2) 植田紀美子：ダウン症候群をもつ就学前児の言語発達に関する情報冊子の作成と普及啓発
- 3) 田附 裕子：腸管機能不全による排泄障害を有した患者およびその家族の継続的支援事業

<国際交流助成>

- 1) 臼井 規朗：国際開発救援財団カンボジア小児外科医師大阪母子医療センター交流助成事業
- 2) 竹内 宗之：大阪母子医療センター集中治療科とロサンゼルス小児病院麻酔集中治療科との国際相互交流

3. 公益目的事業（公 3）【ストップ結核パートナーシップ推進事業】

ストップ結核パートナーシップ関西 第 7 回 ワークショップ

テーマ：「日本語学校生及び外国人技能実習生のための結核対策を考える」

WHO、日本政府などが結核緊急事態宣言発令してから結核対策は官民が一体となつて対応しないと解決できない問題であるとされ、2000年にWHO内に「ストップ結核パートナーシップ」が設立されている。その日本版の団体として「ストップ結核パートナーシップ日本」が2007年11月19日に設立されている。大阪は、国内で最も結核罹患率が高いために2013年に「ストップ結核パートナーシップ関西」を設立してその事務局は当協会に置き、2014年3月に第1回ワークショップを開催した。以来講演会、ワークショップ、シンポジウムなどの各種事業を実施している。近年、大阪でも高蔓延国からの入国者が増え、外国人の結核患者への対応が課題となっている。そのため2019年度は「日本語学校生及び外国人技能実習生のための結核対策を考える」をテーマにして事業を実施した。

《ワークショップ 第一日》

日 時 令和2年1月18日(土) 13:30~17:30

場 所 「オカムラ」共創空間

大阪府大阪市北区大深町 4-20

グランフロント大阪タワー（南館）A21階

株式会社 オカムラ 関西支社「Kizuki LABO」内

参加者 98名

コーディネーター 下内 昭 氏（大阪市西成区役所 結核対策特別顧問）

1 基調講演

1) 「外国人材の適正な受入れ及び共生社会の実現について」

相田 恭輔 氏（大阪出入国在留管理局審査管理部門 統括審査官）

2) 「日本における外国人労働者受け入れの諸問題」

古川 智祥 氏（小原・古川法律特許事務所 弁護士・弁理士）

2 講演：外国出生結核患者の対応の難しさについて

1) 「アジア各国の結核事情について」

下内 昭 氏（大阪市西成区結核対策特別顧問・結核予防会結核研究所主幹）

2) 「外国出生結核患者の治療における問題点」

藤川 健弥 氏（国立病院機構兵庫中央病院呼吸器内科医師）

3 報告：日本語学校生に対する結核対策の現状

1) 「大阪市の結核対策：結核健診、患者支援、医療通訳等」

津田 侑子 氏（大阪市保健所医師）

2) 「患者の治療支援状況・支援体制」

兵藤 隆彦 氏（BASIC 日本語学院事務長）

3 技能実習生の状況について

「外国人技能実習生の現状と結核対応について」

田邊 雅章 氏（大阪府健康医療部医療対策課長）

《ワークショップ 第二日》

日 時 令和2年2月15日(土) 13:30~17:30

場 所 「オカムラ」共創空間

大阪府大阪市北区大深町 4-20

グランフロント大阪タワー（南館）A21 階

株式会社 オカムラ 関西支社「Kizuki LABO」内

参加者 62 名

コーディネーター 下内 昭 氏（大阪市西成区役所 結核対策特別顧問）

<研修目的>

結核に対する基礎的な知識を習得する

1. 日本語学校での体制づくり（以下の担当者を養成して体制を構築する。）

- ・結核健康管理担当者：学生の福利厚生担当者（日本人）
- ・結核患者支援通訳担当者：学生と同じ国の出身者で、日本語と外国語の通訳ができる者

2. 外国人技能実習生関係者間における体制づくり

<講義>

1. 結核対策

1) 結核の基礎知識（結核菌、感染、発病、健診、診断、治療）

橋本 章司 氏（大阪はびきの医療センター臨床研究部部長）

藤川 健弥 氏（国立病院機構兵庫中央病院呼吸器内科医師）

2) 保健所との連携

上山 賀也子 氏（大阪府和泉保健所 保健師）

3) 患者発生時の患者支援および接触者健診の概要（大阪市保健所職員）

4) 翻訳機（ポケットーク）の紹介、使い方 ソースネクスト（株）

2. 結核対策および結核の基礎知識に関する確認および解説

3. グループ討議

1) 日本語学校関係者及び技能実習関係者

座長：橋本 章司 氏 担当：大阪府・大阪市職員等

- ・日本語学校における結核対策マニュアルの作成について
- ・健康管理担当者及び患者支援通訳担当者に対して、結核知識および対策に関する振り返り課題に取り組んでもらう。
- ・具体的な結核患者（疑い者を含む）発生時の対応等の行動計画案の作成
- ・外国人技能実習生のための結核対策マニュアルの作成に向けて

主催：公益財団法人大阪公衆衛生協会ストップ結核パートナーシップ関西

共催：大阪府 大阪市

一般財団法人大阪府結核予防会

認定特定非営利活動法人ストップ結核パートナーシップ日本

大阪大学COデザインセンター

特定非営利活動法人 日本リザルツ（RESULTS Japan）

後援：外国人技能実習機構（OTIT）

大阪大学医学系研究科国際未来医療学講座「国際医療センター」

協賛：一般財団法人大阪府結核予防会

認定特定非営利活動法人ストップ結核パートナーシップ日本
協力：株式会社 オカムラ 関西支社

4. 会員及び協賛金等の確保

1) 会員の確保

令和2年3月31日現在の会員種別、金額

○特別会員（団体） 64 団体 665,000 円

○通常会員（個人） 551 個人 576,000 円

合計 1,241,000 円

2) 協賛金の確保

○団体 4 団体 280,000 円

○団体（広告） 2 団体 150,000 円

合計 430,000 円

3) 寄附金の確保

○個人 5 人 567,729 円

○出版社印税寄附 823,680 円

合計 1,391,409 円

5. その他事業【機関誌・図書】

1) 機関誌「大阪公衆衛生」91号の発行（出版編集室）

機関誌「大阪公衆衛生 91 号」を発刊のための出版編集室会議を開催し、題目、執筆者を決め、1,300 部発刊し、会員、医療機関、保健所、市町村等に配布した。

発行：令和2年3月

《内容》

巻 頭 言 「中村哲医師のアフガニスタンにおける活動から公衆衛生の
原点をみつめる」

高島毛 敏雄（関西大学社会安全学部社会安全研究科 教授）

特 集 「～だれひとり取り残さない社会を創ろう～」

(1) 「検疫所における感染症危機管理」

笠松 美恵（厚生労働省 関西空港検疫所 所長）

(2) 「メディアが伝えない！新型タバコのリスク」

田淵 貴大（大阪国際がんセンターがん対策センター疫学統計部副部長）

(3) 「グローバル化と保健医療者の移動を考える」

安田 直史（近畿大学 社会連携推進センター 教授）

(4) 「都道府県型保健所と市型保健所」

宮園 将哉（寝屋川市保健所 所長）

トピックス

(1) 「健診項目に身長短縮の追加を」

三浦 康代（奈良学園大学保健医療学部看護学科 教授）

会員の声

(1) 「みんなの健康を支える仕事」

大川 純代（大阪国際がんセンター・がん対策センター）

(2) 後輩の皆様へ ～35 年の保健師活動を振り返って～

高崎 充代（吹田市健康医療部 北大阪健康医療都市推進室 主幹）

紹介

「公衆衛生の論点 その記録」（多田羅浩三、左右社発刊）の書評

高鳥毛 敏雄（大阪公衆衛生協会・専務理事）

2) 「地域保健ノート」の発行

本書は保健所や市町村保健センターの事業について解説し、大阪府内看護大学・看護専門学校等の保健師学生・看護師学生が保健所や市町村保健センターの研修に際して使用している。巻末に保健所・市町村保健センターで実習を受ける際の留意点・実習記録、相談記録用紙も付けている。「地域保健ノート」は平成 30 年 3 月に 2018 年版を発行し、販売している。令和元年度の販売数は、413 冊である。

3) 「わかりやすい公衆衛生学」発行に協力

本書は、看護・保健課程の教科書、参考書として活用されており、看護師国家試験の出題基準にも準拠している。また、公衆衛生行政に携さわる人々にも役立つものとして編集されている。一般教養の教材としても利用されている。この書籍はヌーヴェルヒロカワが編集・発行を行っている。

【評議員会・理事会】

1. 評議員会・理事会の開催状況

平成 30 年度の事業報告及び決算報告等、令和元年度の事業計画及び収支予算等審議のため理事会を 2 回、評議員会を 2 回開催した。

1) 令和元年 6 月 4 日（火）理事会

（決議事項）

- ・平成 30 年度 事業報告及び決算書類等、財産目録及び同監査報告承認の件
- ・評議員会の招集

（承認事項）

- ・役員任期終了に伴う再任・辞任について
- ・理事候補者について

（報告事項）

- ・業務執行理事の職務執行状況報告
- ・「母と子のすこやか基金」助成について
- ・藤原九十郎賞受賞表彰式並びに記念シンポジウムについて

2) 令和元年 6 月 24 日（月）評議員会

（決議事項）

- ・平成 30 年度 事業報告、決算書類等、財産目録及び同監査報告承認の件
- ・役員（理事）の選任の件

(報告事項)

- ・業務執行理事の職務執行状況報告について
- ・「母と子のすこやか基金」助成について
- ・藤原九十郎受賞者表彰式並びにシンポジウムについて

3) 令和2年3月6日(金)理事会

(議事)

- ・令和2年度事業計画書及び収支予算書について
- ・令和元年度第2回評議員会の招集について一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第194条の方法(決議の省略)によるとした。

(その他)

- ・母と子のすこやか基金事業について
- ・藤原九十郎顕彰基金事業について

【事業報告の附属明細書】

補足すべき重要な事項はないので附属明細書は作成していない。